

**題材名「夢や目標に向かって（自画像）」…〈絵や彫刻など〉
中学校第2学年及び第3学年**

A 表現 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第2学年	○	●	●	○
第3学年	●	○	○	●

【題材の目標】

- ・ 夢や目標など、自己の心の世界を自画像に表現することの面白さを感じ、主体的に主題を生み出そうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・ 夢や目標などを基に主題を生み出し、構図、形、色彩などの創造的な構成を工夫し、表現の構想を練っている。 【発想や構想の能力】
- ・ 自分の表したいことを具現化できるように表現の効果を考えながら、材料や用具の特性を生かして、創意工夫し表現している。 【創造的な技能】
- ・ 自画像に込められた作者の心情や意図、創造的な表現の工夫を感じ取り、造形的な言葉を用いながら、自分の価値意識を持って味わっている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【生徒の実態（例）】

- ・ 思春期の生徒は、美へのあこがれ、社会や科学、神秘性などに興味を持ち、自己の現在及び未来への願いや、生活や社会を改善していくための方策など積極的、建設的な夢を描けるようになる。また、理想と現実とのはざまに悩み自己嫌悪に陥ったり、不信感を持ったりする時期でもある。
- ・ 第2学年及び第3学年では、感情や内面に心が向けられるようになるとともに、眼前に広がる世界だけでなく、知的に構築された世界にも考えが深められるようになる。

【自画像制作の価値（例）】

- ・ 自画像の制作においては、鏡を見て表面的に形や色彩を捉えるだけでなく、自分自身の気持ちや心の中を見つめることで、より深く自己を理解し、自分の感情やものの考え方、価値観に改めて気付くことができる。
- ・ 制作の過程で、複数の視点から自己を深く見つめることで、新たな自己を知り、今まで気付かなかったよさに気づき、自分を好きになるきっかけとしたい。改めて正面から自己と向き合う活動は、この時期の生徒たちにとって大きな価値を持っている。

【発想や構想の能力、創造的な技能（例）】

- ・ 構想の中には、主題を基に考えをまとめる構成的な側面からの構想と、材料や技法などの表現方法からの構想がある。主題を実現するためには、構成面からの構想だけでなく、表現方法からの構想も重要である。表現方法から構想を練る際には、どのような材料を用い、どのような方法で表現するのか、また、構想している内容が技術的に実現可能な

のかなど、これまでの造形体験などを基に十分考えておく必要がある。

- ・第2学年及び第3学年では、第1学年で学んだ形や色彩、材料などの特性の理解と、用具などの扱い方を工夫して表現するための技能を育成していきたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。
(中学校学習指導要領解説 美術編 P80より)

【板書例】

学習課題等		試作 参考作品	
準備		時間のめやす	
・主題について (生徒の発言を書く。)	・構成の工夫について (主題をどのように表現するか。)	・表現技法について (混色や重色等)	

【準備物の例】

- ・アクリル絵の具 筆 筆洗バケツ 雑巾 新聞紙
- ・鏡 参考作品 キャンバスボード など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【県内美術館との連携】 MOA美術館所蔵 レンブラントの自画像の鑑賞

静岡県内には、多くの美術館が点在している。それらの美術館には、多くの画家たちが制作した自画像が展示されている。

例えば、MOA美術館には、レンブラントの自画像が展示されている。この作品は、レンブラントが、若き青年時代に画家になりたいといった夢を持ち、自分自身を深く見つめ、明暗による表現で描かれたものである。題材の導入や効果的な場面等で、この作品に込められた思いや、表現意図などを感じ取り、さらに自分の言葉で仲間と説明し合うことによって、見方や感じ方を広げる鑑賞の学習が考えられる。

【授業の具体例】 10 時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの自画像を鑑賞する。 ・ウェブマップで自分について考える。 ・どんな夢や希望を持っているのか「夢や目標に向かう自分」を考える。 	1	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標など心の世界を基にした自画像のイメージづくりに取り組み、主体的に構想を練ろうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強く表したいことを心の中に描き、自己の感じ取ったことや考えたことを基に内発的に主題を生み出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夢や希望へ向かう自分をテーマとした自画像をいくつか（日本，西洋）鑑賞し，感想を話し合わせる。 ○ウェブマップを用い，興味や夢，目標などを書き出し，生徒が自分自身について考える中で，主題へとつなげていくようにする。 ○ウェブマップは，生徒同士で見せ合い，感想を聞くことで，自分を客観視できるようにする。その際，肯定的に認め合えるよう支援する。 ○主題は，現実的な夢や目標に向かって自画像をイメージさせる。 ○なかなか主題を生み出せずにいる生徒へは，ウェブマップの中の興味などを読み返す中で主題が生まれるように支援していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・複数のアイデアスケッチをする。 ・アイデアを絞り，イメージスケッチをする。 ・「夢や目標に向かう自分」を効果的に表現するために，構図やアングル，ポーズ，背景，色などを工夫する。 	2	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を基に，構図やアングル，表情，ポーズ，背景，色彩，材料などの組合せ方を考え，表現の構想を練っている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいことを具現化できるよう表現の効果を考えながらアイデアスケッチをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題を基に形や色彩，材料などの組合せ方などを全体と部分の関係で考え，表現の構想をさせる。 ○構想を練る活動が止まっているように見える生徒には，止まっている理由を聞く。必要に応じて，その生徒にとって参考となる友達の取組を紹介したり，例を挙げたりして思考の手助けとなるようにする。 ○主題を基に構想していく中で，新たなイメージが膨らみ，主題が変わっていてもよいことを適宜伝える。 ○試行錯誤の中で，主題や構想が深まっていくことを大切にできるようアドバイスする。

<ul style="list-style-type: none"> ・「夢や目標に向かう自分」が，表れるように，下絵を描き，彩色する。 	6	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことを具現化できるように，表現の効果を考えながら材料や用具の特性を生かし，創意工夫して表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態に合った表現方法や材料を選定する。その際高度な表現効果を求めすぎたり，表現に時間が掛かり過ぎたりしないように配慮する。 ○生徒が自分の表現意図に合う独創的な表現方法を工夫できるように，幅広く表現活動が行えるよう留意する。 ○多様な表現方法を保証し，一人一人の生徒が表したいことを具体的な形にしていく中で，生徒自らの必要感から工夫が行われるように支援する。 ○生徒の様子を丹念に見取り，個々のつまづきを把握し，個に応じたアドバイスをしていく。 ○生徒一人一人の思いや願いに応じて構図や色彩，タッチなどを紹介する。必要であれば，実際にやってみせるなど，具体的に支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品について，主題や工夫したところを小グループで紹介する。 ・気付いたことや考えたことなどを話し合う。 	1	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の心情や意図，創造的な表現の工夫を感じ取り，造形的な言葉を使いながら，説明したり批評し合ったりし，自分の価値意識を持って味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを美術ノートに書く時間を設けた上で，生徒同士が互いに説明する場を設定する。 ○互いの主題や表現の違いに視点をあて，よさや工夫を認め合える雰囲気づくりに努める。 ○鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒には，色彩，色調，タッチなどの具体的な点を挙げ，言葉にするよう助言する。

題材名「音楽のカタチ（立体）」 …〈絵や彫刻など〉
中学校第2学年及び第3学年

A表現 学年	(1)と(3)		(2)と(3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第2学年	○	●	●	○
第3学年	●	○	○	●

【題材の目標】

- ・ 「音楽」という形のないもののイメージを、抽象彫刻に表すことに興味を持ち、主体的に主題を生みだそうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・ 形のないものに対するイメージを基に主題を生み出し、それを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 【発想や構想の能力】
- ・ 材料や用具の特性を生かし、彫刻刀ややすりなどを正しく扱い、自分の表現意図に合う方法を工夫して表現している。また、あらゆる方向から見たバランスや量感、動きを考えながら、立体としての美しさを表現している。 【創造的な技能】
- ・ 材料や用具の特性を生かした作品のよさを感じ取り、作品に対する自分の価値意識を持って味わっている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【発想や構想の能力（例）】

- ・ 第2学年及び第3学年においては、これまで身に付けた様々な材料や用具、表現方法などの基礎的な技法を身に付けた上で、主体的に応用し、多様な表現方法が生み出せるよう題材を展開したい。
- ・ 多様な表現方法を保証するためには、テーマに工夫が必要となる。例えば、「音楽」などをテーマとして、メロディーの流れやリズムやテンポの強弱などから、「イメージ」や「心地よさ」など、人それぞれ感じ方が異なるものを形にすることで、抽象的な表現を学ぶ機会となる。

【材料と用具（例）】

- ・ 「材料」には、硬さ、柔らかさ、切断しやすさなどの特性とともに温かさ、優しさなどの感情的な要素がある。また、「用具」には、切る、削る、彫るなどの機能面としての特性がある。これらを自分の表現に主体的に生かすためには、材料や用具に関する知識を豊かに持つておく必要があり、第1学年からの計画的な題材の設定をしていきたい。

【安全面の配慮（例）】

- ・ 立体作品の制作では、自然物から人工物まで、様々な材料を使用するが、特に、ウレタン等の人工物を原料とした材料を加工する場合には、防塵用（ぼうじんよう）のマスクなどの着用や、事前にアレルギーがないか調査するなどの材料の安全性にも十分な配慮が必要である。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第2学年及び第3学年の指導計画について

第2学年及び第3学年では、より質の高い学習を目指すため、一題材に時間をかけて指導する必要がある。そのため、各学年において内容を選択して行うことが可能であり、2学年間ですべての事項を指導することとしている。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P74より)

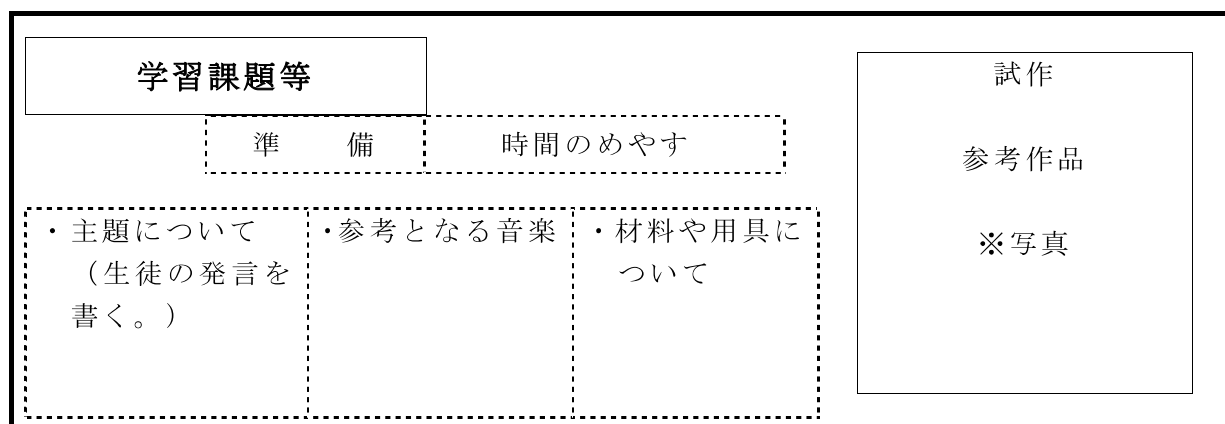
安全指導

事故防止のためには、用具や機械類は日常よく点検整備をし、刃物類をはじめとした材料・用具の正しい使い方や手入れや片付けの仕方などの安全指導を、授業の中で適切な機会をとらえて行う必要がある。

刃物類の扱いや保管・管理には十分留意し、事故を招かないように安全指導を徹底するとともに、貸し出しする道具については劣化の点検や番号を記入するなどして、その管理に努める。また、電動の糸のこぎりやドリルなど電動機械の使用時には教師が付き、慎重な取扱いが必要である。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P83より)

【板書例】



【準備物の例】

- ・彫刻刀 新聞紙 防塵用(ぼうじんよう)マスク
- ・油粘土 ウレタン カッターナイフ やすり など


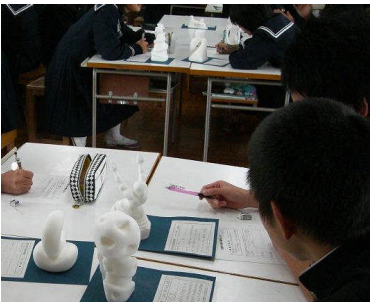
発展的な学習の内容例

【パブリックアート】

イサム・ノグチが設計した公園の写真等を鑑賞した後、身近な環境(町並み公園等)と調和する造形作品を考える。完成後は、デジタルカメラを活用し、身近な環境と造形作品の写真を合成する。

【授業の具体例】 9時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を聴いて、それを言葉や形にする。 ・ 音楽から感じたことを自分の形で表す。 ・ 互いの作品や参考作品を見る。 ・ 自分の感じたことや考えたことを基に主題を決める。 	2	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「音楽」という形のないもののイメージを抽象彫刻に表すことに興味を持ち、主体的に主題を生み出そうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形のないものに対するイメージを基に主題を生み出している。 	<p>○いくつかの音楽（歌詞のないもの）を聴き、その印象を言葉や模様で表し、粘土でつくるようにさせる。</p> <p>○なかなか形の発想ができずに困っている生徒には、粘土を「握る」「伸ばす」「ひねる」などしてできる形を生かしていくなどのアドバイスを適宜行う。</p> <p>○主題を生み出すことに戸惑いを感じている生徒へは、音楽を聞いた時に浮かんだイメージを大切にするとともに、「激しさ」「なめらかさ」などの言葉を挙げてイメージをはっきりさせることで、主題を決めていくように支援する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 粘土でアイデアモデルをつくる。 	1	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題を基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調などを考え構成を工夫し、構想を練っている。 	<p>○試行錯誤の中で、主題や構想が深まっていくことを大切にし、生徒の表したいことの変化について見取り、適宜アドバイスをする。</p> <p>○形の発想ができずに困っている生徒には、生徒の発想の手掛かりとなるよう、複数の音楽の中から選んで聴くことができる場を設定しておく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ウレタンに下絵を描く。 ・ ウレタンの粗彫りをする。 ・ 細部を彫る。 	5	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の特性を生かし、彫刻刀ややすりなどを正しく扱い、自分の表現意図に合う新たな方法を工夫して表現している。 	<p>○正面、背面、側面の形を考えながら、ウレタンの表面に鉛筆で下絵を描かせるようにする。また、適宜型紙などを用いて粗彫りの参考にさせる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・効果を考えて表面を仕上げる。 		<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる方向から見たバランスや量感，動きを考えながら，立体としての美しさを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大まかな形を粗彫りできない生徒には，こつを教えたり，見本のための線を入れたりするなど，具体的に支援する。 ○粘土のモデルを見ながら大まかな形を出し，その後，細部を彫るように指導する。 ○彫刻刀ややすりなどの基礎的な使い方や技法を押さえ，安全に使用させるよう配慮する。 ○いろいろな角度から作品を見て，曲線や直線の形が，自分の主題に合っているか考えながら追求していくようアドバイスをする。 ○表面の仕上げは作品の印象を決めるものであるため，なめらかに整えるばかりではなく，意図的に彫り跡を残すなどの工夫も主題を効果的に表現するために必要であることを紹介する。
<ul style="list-style-type: none"> ・美術ノートに，表したイメージや工夫したところを書く。 ・小グループで，「音楽」を感じる部分やよさについて話し合い，見方や感じ方を広げる。 	<p>1</p>	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の思いや作品のよさを感じ取り，批評し合うなどして，自分の価値意識を持って味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの作品の造形的なよさや美しさについて，根拠を明らかにして捉えることを意識させる。 ○生徒の必要感に応じて，表現した音楽を聴くことができるようにする。

**題材名「一瞬で伝えよう（ピクトグラム）」…〈デザインや工芸など〉
中学校第2学年及び第3学年**

A 表現 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第2学年	○	●	●	○
第3学年	●	○	○	●

【題材の目標】

- ・伝えたい内容を簡潔に伝えるピクトグラムの役割やデザインに関心を持ち、分かりやすく美しい色彩や図柄の構想を練ろうとしている。 **【美術への関心・意欲・態度】**
- ・伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かし、分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 **【発想や構想の能力】**
- ・自分の表現意図に合う形や色彩を工夫するなどして創造的に表現し、制作の順序などを総合的に考えながら見通しを持って表現している。 **【創造的な技能】**
- ・生徒同士で発表し、批評し合い、自分の気付かなかった作品のよさを発見するなどして生徒が感じ取った作品のよさや美しさなどの価値を、広く深く味わっている。 **【鑑賞の能力】**

【題材の価値】

【地域や社会の中の人に対する伝達について（例）】

- ・自分が伝えたい内容を明確にし、形や色彩などの効果を生かして、身近な相手だけではなく、地域や社会の中の多くの人々に対して分かりやすく美しく伝えるための表現をしたい。そのために、第1学年で学んだことを基に、社会的視野の広がりに合わせて、社会一般の不特定の人々などを対象として伝えるよう発想や構想を膨らませることが求められる。

【機能と美の調和について（例）】

- ・情報や気持ちなどを分かりやすく美しく的確に伝えるという機能と美の調和を考え、表現の構想を練ることが大切である。分かりやすく美しく伝えるには、多様な表現の特性を理解し、受け手の印象などを考えながら、何のために、どのような内容をどこで、どのような方法で誰に伝えるかという目的や条件を基に、十分に構想することが大切である。

【表現方法の工夫について（例）】

- ・第1学年で学習した材料や用具、表現方法の経験などを生かしてそれらに関連付けたり、総合的に扱ったりする。
- ・日本及び諸外国のピクトグラムやマークなどにおける表現方法を参考にし、自分の表現意図に合う独創的な表現方法を工夫して幅広く表現活動が行えるようにする。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

スケッチの活用

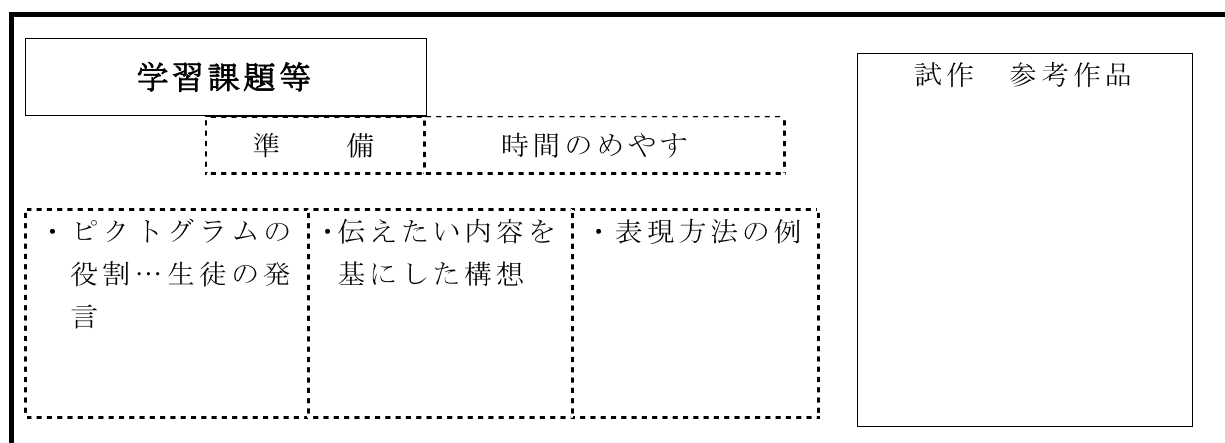
スケッチは、大きく次の3点でとらえることができる。

- ① 自然や人物、ものなどをじかに見つめて、諸感覚を働かせ、様々な視点から対象をとらえて描くスケッチ
- ② 見たことや思い付いたアイデアなどを描きとめ、イメージを具現化するための発想や構想を練るスケッチ
- ③ 伝える相手の立場に立って、伝えたい情報を分かりやすく絵や図に描くプレゼンテーションとしてのスケッチ

※③では、必要な情報を選択し、単純化や強調しながら必要な伝達の意図が明確に伝わるように構成することを大切にする。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P77～78より)

【板書例】



【準備物の例】

- ・スケッチブック 色鉛筆 ポスターカラー 筆洗バケツ 雑巾
- ・ピクトグラムの写真 ケント紙 配色カード など

発展的な学習の内容例

【コンピュータによる作品制作】

ポスターや絵文字、マークなどの題材では、コンピュータの活用が有効である。特に、発想や構想段階でレイアウトや色の効果を考える際に多くの試行錯誤ができるのが利点である。文字や図柄などの大きさや場所、色の濃さや組み合わせなどを手軽に短時間で入れ換えることが可能であり、色や形の構成力を養うことができる。コンピュータの活用は、表現の幅を広げ、様々な可能性を引き出すためにも重要であり、特性を生かして積極的な活用を図りたい。

【授業の具体例】 6時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活で目にするピクトグラムを鑑賞する。 ・ 生活の中で、どんなピクトグラムがあったらいいか、小グループで考える。 ・ 一瞬で伝わるピクトグラムを考え、テーマを決定する。 ・ アイデアスケッチをする。 ・ 効果的に情報が伝わるようなデザインを考える。 ・ 下絵を描く。 	3	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい内容を多くの人に簡潔に伝えるピクトグラムの役割やデザインに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会におけるピクトグラムの役割を理解し、学校内にどんなものがあるかについて、小グループで考える。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かし、分かりやすさや美しさなどを考えて構想を練っている。 ・ 伝えたい情報を分かりやすく表現するために、単純化や省略、強調を使って構想を練っている。 	<p>○ピクトグラムの役割やデザイン性について、興味・関心を抱くように、非常口を示すピクトグラムの日本のものと諸外国のものを紹介する。</p> <p>○交通標識や優先席のマークなども併せて鑑賞する場を設ける。</p> <p>○伝える相手の立場に立ち、伝えたい情報を分かりやすくデザインに表現すること、また、必要な情報を選択し、単純化や省略、強調しながら明確に伝えられるように構成することを押さえる。</p> <p>○生活の中でどんなピクトグラムがあるかについて、小グループで考える場を設ける。</p> <p>○ブレインストーミングの手法を用い、友達の意見を否定せず、より多くのアイデアを出すよう指導する。</p> <p>○生徒の必要に応じて、場所やシチュエーションが書かれた発想のヒントとなるカードを与え、考えの手助けとなるようにする。</p> <p>○アイデアスケッチをワークシートに描き、友達と意見交換しながらデザインを決定していくように支援する。</p> <p>○伝わりやすくするために、単純化や省略、強調、色彩の効果を教える。</p> <p>○補色の関係など、色の性質について確認し、配色カードを用いて色彩を決めるようにする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・彩色の順序を考え、見通しを持って、画面の彩色をする。 	2	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 ・制作の順序などを総合的に考えながら見通しを持って表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○彩色の見通しを生徒自らが持てるよう留意する。 ○平塗り，溝引き，マスキング等の技法について確認し，より美しく彩色できるようにする。 ○色の強さを考え，塗る順序を適宜指導する。 ○彩色が思うようにいかない生徒に対しては，授業者が絵の具の扱い方や塗り方の手本を示していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・「伝わりやすさ」について根拠を挙げて批評し合う。 	1	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じ取った作品のよさや美しさ，伝わりやすさなどの価値を発表し合い，自分の気付かなかった作品のよさに気付き，味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「伝わりやすさ」や「印象」という観点で，「なぜそう感じるのか」の根拠を挙げながら話し合うように指導する。 ○洗練されたデザイン性についても考えるようにさせる。 ○鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒へは，友達の見解を聞くことで，作品のどの部分に着目しているのかを参考にしよう支援する。

**題材名「心安らぐランプシェード」…〈デザインや工芸など〉
中学校第2学年及び第3学年**

A 表現 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第2学年	○	●	●	○
第3学年	●	○	○	●

【題材の目標】

- ・生活の中のデザインや工芸などの表現方法に興味を持ち、主体的に光の効果を生かしたランプシェードの構想を練ろうとしている。
【美術への関心・意欲・態度】
- ・生活を豊かに演出するためのランプシェードをつくるために、美的感覚を働かせて形や材質、光などの組合せを工夫しながら構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。
【発想や構想の能力】
- ・材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。
【創造的な技能】
- ・身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解し、自分の価値意識を持って批評し合うことにより、美意識を高め、幅広く味わっている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【構成や装飾（例）】

- ・構成や装飾をするための造形要素は「形や材質、光など」である。これらを用いて自分の表現意図を十分に表すためには、それぞれの特性の理解を広げる必要がある。
- ・構成や装飾の発想や構想は、ただ思い付くままに考えるだけではなく、洗練された美しさを追求し、簡潔にすることも考え構想を深めるようにする。また、ランプシェードを置く場所や季節など、それを使用する周囲の状況を十分に考慮させる。形や材料などが持っている特質もそのよさを十分に生かす構成を工夫させてこそ効果は発揮される。

【身近な環境について（例）】

- ・実態に応じて身近な環境に目を向け、心安らぐ生活空間を構成や装飾する視点に立って課題を発見し、心豊かな環境を考えて発想や構想をする。

【材料や用具について（例）】

- ・第2学年及び第3学年では、第1学年で学習した材料や用具、表現方法の経験などを生かしてそれらを関連付けたり総合的に扱ったりしたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

話し合うこと

制作の過程や完成段階などで、学級全体やグループなど形態を工夫して、一人一人が自分の思いや工夫したことなどを発表したり、他者のよさを認め合ったりして、互いが学んだことを共有化する学習の機会を設けることが大切である。

作品を通じて他者と考えを交流させ互いに学び合うことを経験させる中で、互いの表現のよさや個性などを認め合い尊重し合う態度を育てるようにする。このことは、一人一人が自分の考えをもち、それを発表し、他者と議論・交流をしていく能力・態度を育てる上でも大切な意義をもっている。また、これは自己肯定感と制作への意欲を高めることにつながる。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P82より)

【板書例】

学習課題等		試作 参考作品	
準備		時間のめやす	
・発想や構想 …生徒の発言	・光の効果 ・形の効果	・用具の例	

【準備物の例】

- ・ のり はさみ スケッチブック
- ・ LED電球 粘土 和紙（鳥の子紙など） ラップ など


「静岡県ならではの」を生かした内容

【ウォーターキャンドル】 … 柿田川公園(清水町)

ウォーターキャンドルとは、手づくりのオブジェに、柿田川の湧水とフローティングキャンドルを浮かべたものである。例年、12月の中旬に柿田川公園にて開催される。清水町内の小・中学生等が主体となって参加している。

この他、県内各地で開催される「祭り」に使われる提灯を、和紙を使ってデザインするといった内容も考えられ、この題材は多様な活用が可能である。

【授業の具体例】 7時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・和紙を生かしたランプシェードを考える。  <ul style="list-style-type: none"> ・使う場所や時間，状況を具体的に考える。 ・使う場所や形を考え，アイデアスケッチする。 ・アイデアを絞り込み，構想を固め，イメージスケッチを描く。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 【美術への関心・意欲・態度】 ・生活の中のデザインや工芸などの表現方法に興味を持ち，主体的に構想を練ろうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かに演出するためのランプシェードをつくるために，状況や目的に合った光の効果や形を考え，表現の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が試作したランプシェードの作品を鑑賞する場を設ける。 ○身近な環境に目を向け，心安らぐ生活空間を構成したり装飾したりする視点に気付くための動機付けを図る。 ○家の中で使いたい場所や，どんな状況で使うかを考え，その場所にあった光や形の効果を考えるように指導する。 ○主題は，「部活で疲れた自分を癒してくれる」「悩みごとを忘れさせてくれそうな」など，生徒一人一人が自由に設定するように指導する。 ○「心安らぐ」をよりどころとして形を発想し，構想を深めるように適宜アドバイスをする。 ○形が思い付かない生徒には，必要に応じて，粘土を実際に触りながら発想できるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・構想を基に，粘土で原型をつくる。 ・ラップで粘土を包む。 ・和紙を原型に貼る。 ・光の効果を考え試しながら，和紙の貼り方を工夫する。 ・型を抜く。 ・光の効果を考え, 試しながら，工夫して切り込みを入れる。 	4	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現意図に合う光の効果を工夫するなどして創造的に表現している。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の効果を考え，形や材質，光などの組合せを工夫し，試行錯誤しながら構成や装飾の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「心安らぐ」「使う場所や状況」といった点で，どんな工夫をするのかについて紹介し合い，芯材づくりに入れるようにする。 ○テクスチャーの効果を考えて，和紙の重ね方，種類，表面処理，挟み込みなどの工夫をするように支援する。 ○工夫について悩んでいる生徒には，挟み込む材料，和紙を提示して発想を援助する。 ○和紙の重ね方や切り込みを工夫するために，暗い場所を用意し，光の効果を確かめながら制作ができるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・部屋を暗くし，一斉にライトアップして，互いの作品を全体で鑑賞する。 ・ランプシェードに灯りをつけた時の効果について小グループで批評し合う。 	1	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に対する自分の価値意識を持って批評し合うことにより，美意識を高め，幅広く味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品を集めて光を点灯させた様子を楽しむことができるような鑑賞の場を設定する。 ○小グループでの鑑賞会において，それぞれの作品に明かりをつけたり消したりしながら，光の効果の工夫について批評し合うよう指導する。